

city&life

都市のしくみと暮らし

no.65

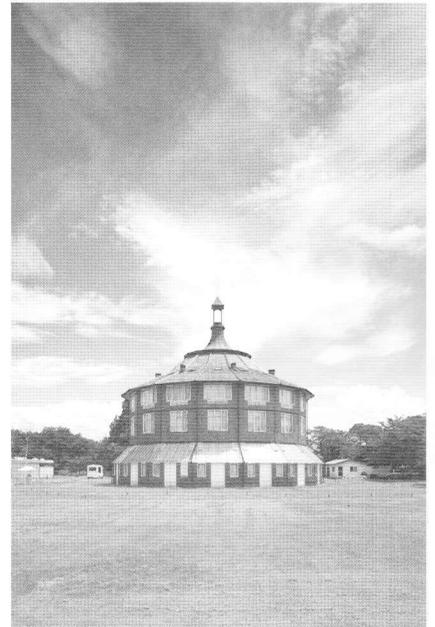
autumn

2002



特集

都市はアートで刺激される



表紙—清春芸術村「ラ・リュージュ」(関連記事p29)
裏表紙—那須芦野・石の美術館 STONE PLAZA
(関連記事p14)
photo:鈴木理策

特集

都市はアートで刺激される

contents

座談会	アートと都市の古くて新しい関係 長谷川祐子×桂英史×大西若人	2
ケーススタディ	世界にここだけ?! わが町の「自慢」ミュージアム なにわの海の時空館／石と賢治のミュージアム・太陽と風の家／野島断層保存館／笛吹川フルーツ公園／那須芦野・石の美術館 STONE PLAZA／馬頭町広重美術館／長池ネイチャーセンター／直島アートプロジェクト／司馬遼太郎記念館／感覚ミュージアム／せんだいメディアテーク／三鷹の森ジブリ美術館／北上川・運河交流館 水の洞窟／平野町ぐるみ博物館／なかがわ水遊園・おもしろ魚館	9
ルポ	アーティストが町を刺激する アーティスト・イン・レジデンスの試み	29
ルポ	町に開かれたギャラリー	36
information・back number		40



都市はアートで刺される

特集

一昨年、新潟で開催された越後妻有^{つまろ}アートトリエンナーレ2000や昨年の横浜トリエンナーレ、

あるいは国際美術展やアーティスト・イン・レジデンスなど、それぞれ形こそちがうが、「アート」を核に置いた新たな都市文化の再生を狙った試みであったことでは共通している。また、「せんだいメディアテーク」のように新しいタイプのミュージアムも各地に登場してきた。

その背景には、アートや情報メディアの急速な進展により、資料・作品が多様化し、従来のような分類・展示がもはや不可能になってきたことがあるだろう。さらに住民主体の小さなギャラリーも元気だ。ここでは、アートや工芸が住民と町をつなぐ役割を担い、まちづくりの拠点として機能している。

一方、景気が冷え込む中、文化活動の一環として行われてきたミュージアムづくりに対しても批判の声が上がっているのも事実。いわゆる「箱もの行政」に対する市民の目はますます厳しいものになっている。そうした批判も検証しながら、主に現場に視点を置き、アートとまちづくりの関係を考える。

photo: 鈴木理策「司馬遼太郎記念館」(関連記事p20)